

食産業と健康長寿社会の発展を目指して

— 食と医・薬のめでたい結婚に向けて — 開催のご案内

時代は、「治療」から「予防」へと大きく動き出しています。

誰でも何らかの病気に罹ってしまえば、治療する必要があります、これは当然の流れであります。しかし、それら治療を必要とするような疾患の中に、発病前である未病の段階で予防できる可能性のある疾患があるかもしれない——。多方面にわたる様々な企業や専門機関の研究によるめざましい技術進歩が、食品分野において、遺伝子レベルでの様々な変化や現象、疾患との関わり方などについて多くの可能性を見出しつつある状況にあります。それら多くの研究成果から得られるものは、ひとりひとりの個人が自分自身やその家族など大切な人々の「健康長寿を願う」という切実な思いを実現するための大きな役割を担うことになるはずです。さらにそれが、すでに日本が抱えている大きな課題である「健康長寿社会の構築」を実現する土台になるのです。なぜなら、この日本を形成しているのが、それぞれの「健康」を願うひとりひとりの個人であるからです。

日本の現状は、これら予防医療の重要性を中心とした健康に対する意識変革の流れから、トクホ制度が制定され、さらに「機能性表示食品」制度なども整えられてきた段階にまでようやく辿り着いたところといえるでしょう。

そのような中で残念に思われることは、商品やその情報を提供する側の企業・研究機関をはじめ、それらを受け取る側である個人の消費者をも含めた、あらゆる立場の人々が共に「正しい情報」を得られる場所がほとんどないという現状であります。産・学・官・民のすべてが、それぞれの立場における主張をバラバラに繰り広げるだけでは、相互の理解を深めることは不可能です。結果的にすべての利益になるはずのものを台無しにしてしまい、日本の「健康長寿社会の構築」という最終的な目標の実現から遠ざかってしまうという不利益を被ることになってしまいます。

行政は適切な法整備を用意し、企業や研究者は消費者に正しい情報と商品をお届け、消費者は健康に対する意識をより高め、自らに適切な商品を選択できる目をもつこと——

とてもシンプルなことですが、難しくもあります。特に、企業においては、それぞれの競争原理から個別に独自の理論で動き、商品を開発し、その商品や情報については個別のメディア広告、宣伝の影響により消費者へ広めることで終わってしまう。消費者は、日々の食生活に目を向けた個別の人間栄養学に基づく大切な基本についての知識を得る機会に恵まれず、そのような企業の宣伝に翻弄され、ひとりひとりの個人にとって本当に必要なものが見落とされたまま、価値判断が広告イメージの方を優先してしまう状況にあると思えます。

これら健康に関する食品というものは、単なる一過性のブームで終わらせるヒット商品というような性質のものではなく、長く・広く・正しく消費者に利するものでなければなりません。ひとりひとりに必要なものは何か、そしてその声を聞いたうえでの企業による商品開発が、本当の意味での高い付加価値をもつ特別なものとなるのではないのでしょうか。

食品の疾病発現を予防すると期待される生理学的効能効果は、治療を目的とする医薬品のように疾患の原因に直接的に作用するメカニズムだけでは説明できない、生体の多様なシステムが作用する複雑なメカニズムが関与しておりその全貌を明確にすることは極めて難しい特性を有しております。

このような食品の特性を十分に配慮し、食品の期待される生理学的効能効果を標榜する制度化とその正

しい普及に向けて、トクホの制度化にあたって食品の生理学的効能効果に関わる研究成果を社会に貢献するという視点から評価するという意味で重要な指針を与えた「レギュラトリーサイエンス」の概念を取り入れた「食と健康の科学」を基盤として、短・中・長期の視点に立ってステップワイズに活動することが望めます。実際に、臨床試験などで得られた科学的に実証された成果だけですべてが解決しているとは言い難い現状を鑑みた場合、それら実証に加えて、多方面の専門家を中心とした議論により想定される予測をも尊ぶ価値観を重視すべきであると本 NPO 法人は考えます。これは、大震災や噴火などの天変地異をはじめとした不確定要素に溢れている世の中の出来事と照らし合わせてみても、実証だけですべてが解決しているわけではなく、様々な予測に注力されていることと同様の問題と思えるからです。不確定要素が多い中でも、それでも何らかの方向性や可能性を見出すためには、実証とともに予測を重視する必要があります、それらは専門家側からの一方的な押しつけではなく、ひとりひとりの個人との社会的な合意のうえで共有されなければなりません。

そのような中で、食品を開発する企業側の環境や背景も時代と共に大きく様変わりしています。技術進歩とともに食品開発にかかるコストや手法の変化、新設される法制度への対応、新たな素材の探索や消費者ニーズの把握などについては、ある企業単独で解決するには困難を伴う問題となることも考えられます。食品や素材の善し悪しや可能性というものは、それらを取り扱う企業の大小・体力によって変化するものではないため、消費者に利するものが、その真価とは別の理由により失われてしまうことは非常に残念なことであります。そのような意味において、同じ目線をもつ産・学・官・民の連携を強化して、広く社会に受容してもらえる「食と健康の科学」とその正しい普及を通して健全な健康長寿社会の発展に寄与できる“真のコミュニケーションの場”を提供することができればと考えております。

このような一連の視野に立って、本 NPO 法人は、「食と健康の科学」の健全な発展を目的として『食と健康を考える研究会』を設立致しました。健康長寿を願うすべての人々が、正しい知識の普及を通して「食と健康の科学」への理解を深めることは、食産業の発展と健康長寿社会の実現にとって必要不可欠なものと考え活動しております。この度、「産・学」に加え「官・民」が同じ目線で話し合える機会をもつことにより、「食と健康の科学」に対する共通した価値観を醸成することを目標とした活動の一環として、「食産業と健康長寿社会の発展を目指して ― 食と医・薬のめでたい結婚に向けて ― 」を大テーマとする別紙内容の公開シンポジウムの開催を企画致しました。

本シンポジウムでは、「レギュラトリーサイエンス」の普及に向けて鋭意ご活躍されておられる早稲田大学特命教授、医療レギュラトリーサイエンス研究所 笠貫 宏 先生、食品業界の重鎮として広角的視点から健康長寿社会の発展に向けて鋭意ご活躍されておられる渥美和彦記念未来健康医療財団 理事長、東京大学名誉教授 渥美 和彦 先生、正しい「食と健康の科学」の構築とその普及に向けて鋭意ご活躍されておられる東京農業大学応用生物科学部 教授、東京大学名誉教授 清水 誠 先生、さらに(株)日経 BP 社 宮田 満 先生の司会によるパネルディスカッションには、「消費者による消費者のための消費者教育」の活動に尽力されておられる(一財)消費科学センター 理事 犬伏 由利子 先生も迎え、非常に貴重な情報を得られる機会となる先生方にお集まりいただいております。

あらゆる立場の皆さまのご出席を賜り、相互理解と知識を深める貴重な機会となりますことを願っております。また、本シンポジウム終了後には、懇親会もご用意しております。意見交換ならびに皆さまの知識の交流の場としてご活用いただければ幸甚です。

皆さまのご参加をお待ちしております。ぜひこの機会にご参加下さい。

食産業と健康長寿社会の発展を目指して

— 食と医・薬のめでたい結婚に向けて —

【開催概要・プログラム】

開催日時	平成27年10月9日（金） 13:00～20:30（懇親会 19:00～20:30）
会場	星薬科大学 メインホール （東京都品川区荏原 2-4-41）
参加対象	あらゆる食品および健康に関連する企業・教育・研究者、一般消費者どなたでもご参加いただけます
内容	■主催者挨拶（13:00～13:20） ・食の本質を基盤とする「食と健康の科学」と制度化のあり方を考える 本NPO法人 理事長 板倉 弘重 氏 ■基調講演（13:20～16:20） ・「レギュラトリーサイエンス」の普及に向けて 早稲田大学特命教授、医療レギュラトリーサイエンス研究所 笠貫 宏 氏 ・「食と健康の科学」の課題と展望 東京農業大学応用生物科学部 教授、東京大学名誉教授 清水 誠 氏 ・食でつくる健康長寿社会を目指して 渥美和彦記念未来健康医療財団 理事長、東京大学名誉教授 渥美 和彦 氏 <休憩（16:20～16:30）> ■パネルディスカッション（16:30～18:30） ・「開かれた合意の科学と制度化を目指して — 産・学・官・民のコンソーシアム形成に向けて」 ◇パネリスト◇ - 渥美 和彦 氏（渥美和彦記念未来健康医療財団 理事長） - 犬伏 由利子 氏（一般財団法人消費科学センター 理事） - 笠貫 宏 氏（早稲田大学特命教授） - 清水 誠 氏（東京農業大学応用生物科学部 教授） 司会：宮田 満 氏（(株)日経BP社 特命編集委員） ■まとめ（18:30～18:45） 本NPO法人 事務局長 島崎 秀雄 氏 ■懇親会（19:00～20:30）
参加費	5,000 円（懇親会費含む）／一般の方、学生、報道関係者は無料（懇親会費のみ 3,000 円）
主催	NPO法人 21 世紀の食と健康文化会議
協賛 （順不同）	早稲田大学医療レギュラトリーサイエンス研究所、渥美和彦記念未来健康医療財団、静岡県立大学薬食研究推進センター、（社団）日本生活習慣病予防協会、星薬科大学、（認定 NPO 法人）セルフメディケーション推進協議会、（一財）消費科学センター、（公社）東京都栄養士会

参加費 5,000 円（懇親会費含む）

懇親会費 3,000 円（参加費無料の方）

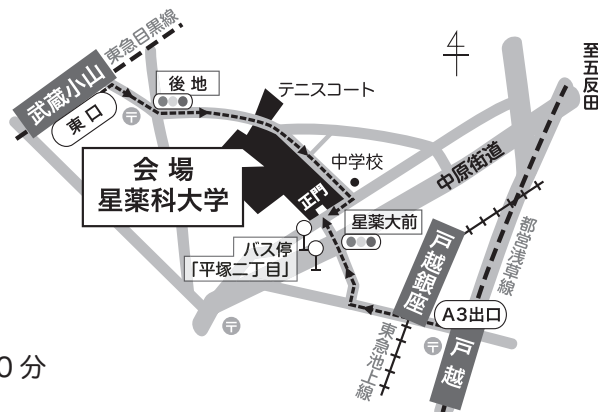
※当日会場受付にて現金でお支払いをお願いいたします。
領収証が必要な方は受付にお申し出下さい。

※一般の方、学生、報道関係者様のご聴講は無料です。

会場へのアクセス

- 東急池上線「戸越銀座」駅下車 徒歩 約 8 分
- 東急目黒線「武蔵小山」駅下車（東口） 徒歩 約 15 分
- 都営地下鉄浅草線「戸越」駅下車（A3 出口） 徒歩 約 10 分
- JR「五反田」駅からタクシーで約 7 分

会場：星薬科大学 メインホール



第2回 食と健康フォーラム（公開シンポジウム）

「食産業と健康長寿社会の発展を目指して
— 食と医・薬のめでたい結婚に向けて —」

参加申込書

NPO 法人 21世紀の食と健康文化会議 事務局 行

以下に必要事項をご記入の上、右記の番号まで FAX にてご送信下さい。

FAX : 03-3811-1019

フリガナ	
ご氏名	
ご所属	勤務先・団体名・学校名等
	部署名・学部等
ご連絡先 住所	〒 -
	TEL FAX
E-mail	
備考	ご連絡事項やご要望等がありましたらご記入下さい。

* 参加申込書にご記入いただいた個人情報につきましては、本フォーラムに関すること以外には利用いたしません。

なお、本件に関してのお問い合わせにつきましては、下記までご連絡ください。



NPO 法人

21世紀の食と健康文化会議

事務局 島崎

TEL : 090-2462-5822

E-mail : shimazaki@21shoku-ken.jp

Web : <http://www.21shoku-ken.jp>